

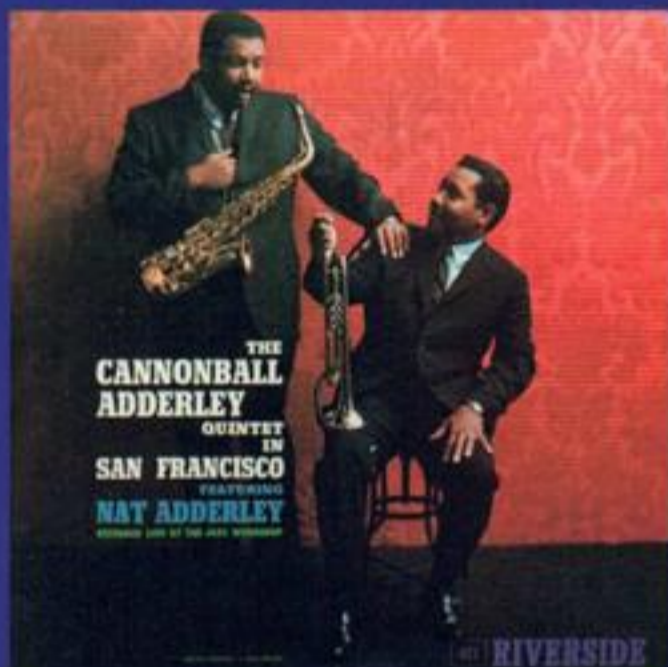
ジャズ批評

隔月刊

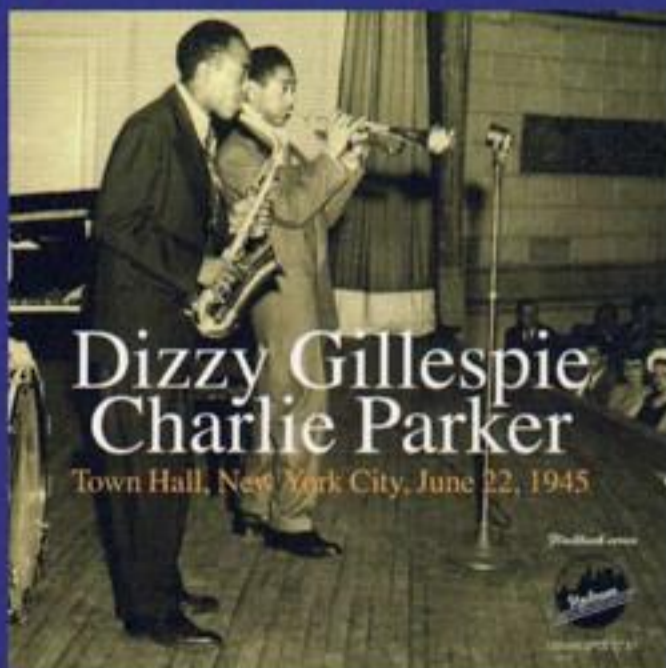
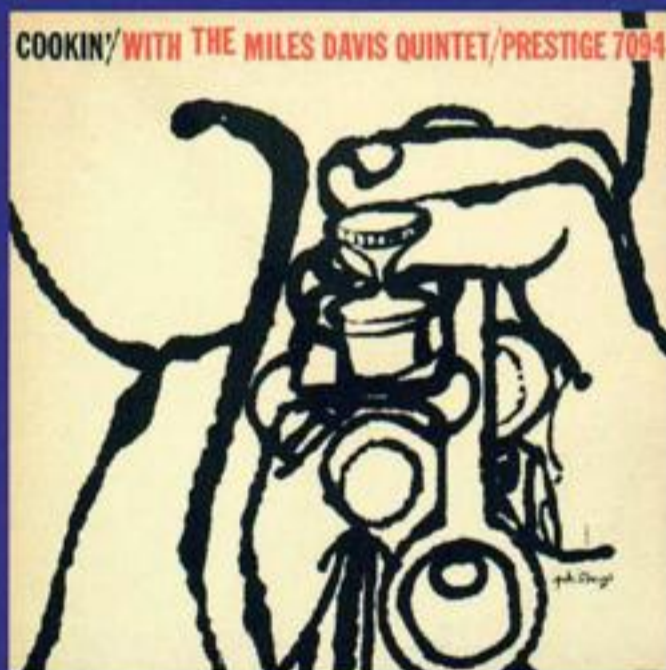
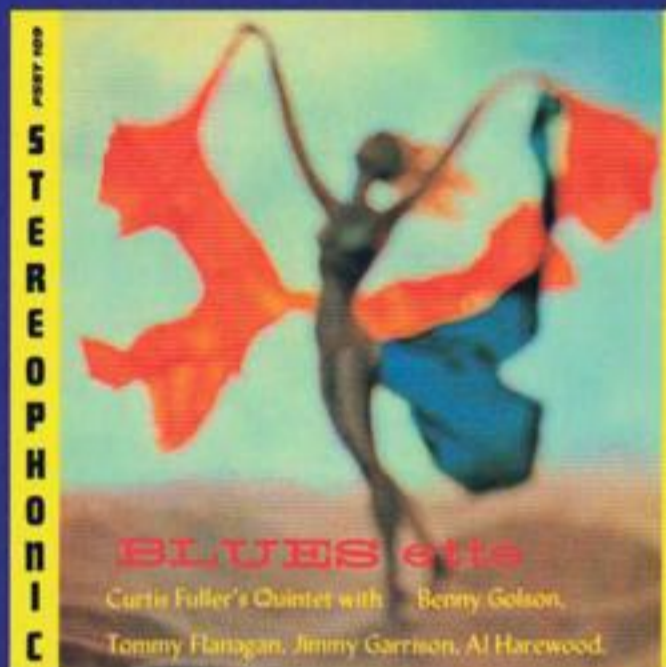
since 1967
2023/5

233

JAZZ CRITIQUE MAGAZINE



特集 テツパニー! 2ホーン・クインテット



アレクサンドル・スクリャービンズ・ラグタイム・バンド / デヴィッド・ゴードン・トリオ 東京エムプラス Mister Sam PSAMCD-004



- ①Praeludium Mysterium ②Alexander Scriabin's Ragtime Band ③Scriabin's Depressed ④Cakewalk ⑤Prelude For Both Hands ⑥Famous Etude ⑦Tres Lindas Cubanas ⑧Nuances ⑨Choro Mazurka ⑩El Pollito ⑪Rootless Sonata ⑫Improbable Hip ⑬Passinha ⑭River

デヴィッド・ゴードン(p), ジョンティ・フィッシャー (b), ポール・カヴァキューティ (ds),
ゲスト: カラム・ヒース(g-1, 11), ヤロン・スタヴィ (b-6, 10)

スクリャービンはロシア生まれのピアニスト、作曲家。モスクワ音楽院ではラフマニノフと同級だったというから時代性もわかるだろう。彼の音楽は短い生涯で大きな変貌を遂げるが、特に20世紀に入ったころから前衛性を明らかにしいわゆる神秘和音を特徴とする作品を残した。ゴードンの本作はスクリャービン作品を中心とするジャズ化アルバム。といってしまえば簡単なのだが一筋縄ではいかない。それだけでなく難解なスクリャービンをどう料理しているのか。正攻法のピアノ・トリオもあれば、前衛ロック風もある。タイトルはアーヴィング・バーリンの名曲をもじったものだからユーモアもある。是非買って下さいとは普段この欄では言わないが、真摯な聴き手には必ず伝わる内容の濃いアルバムとだけは言っておく。原田和典氏の洞察に満ちた見事な解説も読みごたえ十分。(小針俊郎)

Andar Com Gil / デリア・フィッシャー & ヒカルド・バセラル

Jasmin Music



- ①Oriente ②Se eu quiser falar com Deus ③Andar com fé ④Cada tempo em seu lugar ⑤São João Xangô Menino ⑥Prece ⑦Palco ⑧Aqui e agora ⑨A Paz

デリア・フィッシャー (vo, p, key, cho, handclap), ヒカルド・バセラル (vo, p, key, org, sitar, sarod, sarangi, harmonium, fl, perc, dulcimer, b, ds)
Guests: ジルベルト・ジル (vo-6), ジャキス・モレレンバウム (vc-6)

デリア・フィッシャー (p,vo)とヒカルド・バセラル (vo,多種楽器)によるジルベルト・ジル作品集。ジルは1942年生まれのブラジルのミュージシャンで政治家でもあった。アントニオ・カルロス・ジョビンやジョアン・ジルベルトより一世代若いジェネレーションのジルは、彼らの影響を受けながらも、同世代のビートルズ、アメリカのロック、ソウルやレゲエなどの要素を取り入れ、新世代のブラジル音楽創造に力を注いだ。デリアとヒカルドの音楽もブラジリアン・ルーツを保持しながら、世界音楽としての多様性豊かなもので、その越境性には目を見張らされる。これもジルの音楽が持っている精神性がデリアとヒカルドに共感を与え、相乗して時代や地域性を超える音楽になっているからだ。⑥には80歳(録音当時)のジルも参加。肉声を通して世界観を表現するジルの精神に触れたい。(小針俊郎)